

# カナダ・ポップ・ミュージック界のスターたち

## 鈴木道子

カナダのポップ・ミュージック界は、今まさに爛熟期を迎えつつあるようだ。ゴードン・ライトフット、アン・マレー、ブルース・コバーン、ジョニ・ミッチェルといったすぐれた歌手たちがカナダではもちろん、米国その他のピアニストが世界各地の音、オスカー・ピーターソンやフラנק・ミルズなどのピアニック界の代表選手たちを、カネアの音楽事情に詳しい鈴木道子さんに紹介してもらった。



### ゴードン・ライトフット

Gordon Lightfoot

カナダには優れたフォーク系自作自演歌手が少なくないが、その筆頭にあげられるのが、ライトフットだ。彼は「現代の吟遊詩人」「カナダの英雄」と呼ばれ、ジュノー賞(カナダのレコード大賞に相当)の常連でもある。一九三八年十一月十七日、オンタリオ州オリリア生まれ。ボーイ・ソプラノから始まり、七歳で既にコーヒ・ハウスで歌っている。ハイスクール卒業と同時にロサンゼルスへ。ウエストレイク・カレッジで管弦楽法を学び、CMソングの作・編曲者、プロデューサー、デモ・シンガー等をしてきたが、一九六〇年ビートル・シーガーに刺激されて、フォーク系自作自演歌手となった。「朝の雨」がイアン&シルビアで全米ヒットとなったのを手始めに、プレスリーからバーブラ・ストライザンドまで多くの歌手に彼の作品は愛唱されている。自身の歌でも全米No.1ヒット「サンタウン」や「カナダ鉄道三部作」ほか、名曲・名唱は多い。近年渋さを増したとはいえ、作風・歌唱には一貫したものがああり、イギリスのバラードの伝統をひく物語歌と、人間の心を深く洞察したラブ・ソングは、フォーク/カントリー・タッチの簡素なサウンドと、孤独の影を宿した歌声と共に、時代をこえて訴えかけ

るものがある。

### ジョニ・ミッチェル

Joni Mitchell



ゴードン・ライトフットと双壁をなす女性自作自演歌手。豊かな才能があふれんばかりだが、特にその斬新な感覚は、他を大きくひきはなしている。レコード一作ごとに、独自の作風を發展させながら変化していくことでも、ユニークなアーティストといつていい。一九四三年十一月七日、アルバータ州マクロードにロバータ・ジョーン・アンダーソンとして生まれた。サスカチユワンの学校をへて、カルガリーのアルバータ美術大学へ入学。商業美術が専攻だったが、フォーク・ミュージックに魅了され、ウクレレ、ギターを始め、伝統的なフォーク・バラードを歌うようになる。一九六四年のマリボサ・フォーク・フェスティバル出演以来、トロントを中心に自作を歌う歌手へ転身。一時期チャック・ミッチェルと結婚してデトロイトで活躍した後、ニューヨークへ出るが、彼女の名声はジュディ・コリンズが彼女の「青春の光と影」をヒットさせたことに始まる。そして、ジョーン・バエズ、コリンズと並ぶフォークの三大女性歌手といわれたが、「ウッドストック」あたりからロック・アーティストの影響を強め、近年はジャズメンとの交流でジャズ

色を打ち出すなど、どんどん変化しながら、「レイディイス・オブ・ザ・キヤニオン」「ミンガス」「ジャドリス&ライト」等の名作を生んでいる。また、ジャケット装丁でも見事な画風を示しているほか、映画・TVなど、映像面でも制作、出演と多彩な才能を発揮している。

### アン・マレー

Ann Murray

カナダに住みながら、世界的なスターとして最も有名なのが、アン・マレー。「カナダの恋人」などと呼ばれている。一九四五年六月二十日、ノバ・スコシア州スプリングヒル生まれ。他の兄弟五人全部が男性ということによって彼女も男まさりのスポーツウーマン。ニュー・ブランズウィック大卒業後は、体育教師をしていたことがあるが、ピアノを六年間、歌も二年間レッスンを受けており、大学時代からCBCテレビ「シングアロング・ジュビリー」に出演してレコード界入り。六九年「スノーバード」の大ヒットで、一躍世界的に有名になり、カナダのジュノー賞はもちろん、「辛い別れ」でアメリカのグラミー賞の最優秀女性歌手賞も受賞している。カントリー・タッチの、明るく大らかな歌声は、いかにもカナダの大自然から生まれてきた感じがあり、アメリカではテレビでも人気が高い。

